

授業概要

乳幼児および児童・生徒の発達について、身体・運動、言語・認知、情緒・社会性など各領域の特徴と相互の関連性についての基礎的な知識を学ぶ。その際、ピアジェ、ヴィゴツキーなどの代表的な発達理論を基に、発達を規定する内的、外的要因およびその相互作用などの観点について理解することをねらいとして講義する。また、子どもの健全な発達を保障するうえで必要なかわりや援助のあり方についても講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：発達とは何か
第 2 回	発達心理学の基礎理論と発達のメカニズム
第 3 回	乳児期の発達①：運動、知覚
第 4 回	乳児期の発達②：愛着
第 5 回	幼児期の発達①：言語
第 6 回	幼児期の発達②：自己
第 7 回	幼児期の発達③：認知
第 8 回	児童期の発達①：認知
第 9 回	児童期の発達②：社会性
第 10 回	児童期の発達③：道徳性
第 11 回	青年期の発達①：心身の変化
第 12 回	青年期の発達②：アイデンティティ
第 13 回	青年期の発達③：対人関係
第 14 回	成人期の発達
第 15 回	高齢期の発達
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・ 乳幼児および児童・生徒の発達にかかわる心理学の基礎的な知識や理論について説明することができる。
- ・ 子どもの健全な発達を保障するうえで必要なかわりや援助のあり方について考えることができる。
- ・ 子どもの学びの過程を理解し、育ちを支えていく体験、環境の役割について考えることができる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、小レポートを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配布する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と定期試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。
授業内で適宜、参考文献を紹介する。

授業概要

発達心理学の基礎知識を習得するとともに、人の発達について多角的に理解することを目指して、各発達段階の特徴や発達の課題について学ぶ。本授業での学びを保育・教育における知識として定着させ、子どもの発達を支える関わり方や環境について考察できるよう、現代的トピックを織り交ぜながら講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス／発達とは何か
第2回	保育・教育実践に関わる発達心理学の基礎理論
第3回	発達のメカニズム：遺伝と環境
第4回	脳の発達／胎児期の発達
第5回	新生児期／乳児期の発達：運動・知覚
第6回	乳児期の発達：認知・言語・情動
第7回	アタッチメント／乳幼児期の自己の発達
第8回	幼児期の発達：認知・思考・言語
第9回	幼児期の発達：心の理解・情動・社会性
第10回	児童期の発達：認知・社会性・道徳性
第11回	児童期の発達：自己意識・動機づけ・課題と支援
第12回	思春期・青年期の発達：思考・自己概念・人間関係の変化
第13回	成人期の発達：多様なライフスタイルとアイデンティティの再構築
第14回	高齢期の発達：生涯発達心理学的視点でとらえた課題と支援
第15回	全体のまとめ
第16回	定期試験

到達目標

- ・発達心理学の基礎的理論の知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解できる。
- ・発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。
- ・子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、疑問や意見を記述するワークや、グループワーク等を用いて進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

次回授業のテーマについてあらかじめ知らせるので、テーマの領域について調べておくこと。授業後には、授業中に指定された重要語句について復習し、日常生活の中で生じる出来事と関連づけて覚えられるようにすること。参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

定期試験（60%）、授業での取り組み（40%）によって行う。授業での取り組みについては、授業内課題などの評価および提出状況、授業への取り組み姿勢なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。